



ひつじ書房

# おすすめ書籍のご案内

コード	シリーズ名	書名	編著訳者名	本体価格
1037		日本語の乱れか変化か	金澤裕之・川端元子・森篤嗣編	3,800
782		日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す 第2巻 「した」「している」の世界	庵功雄・田川拓海編	4,200
992		[研究プロジェクト] 時間と言語	益岡隆志監修 定延利之・高山善行・井上優編	6,200
966		日本語文法史キーワード事典	青木博史・高山善行編	2,000
1046	日本語文法史研究	日本語文法史研究 5	青木博史・小柳智一・吉田永弘編	4,000
1056		「させていただく」の語用論	椎名美智著	3,600
1059		「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門	中俣尚己著	1,800
1071		全国調査による言語行動の方言学	小林隆編	5,000
983		発話の権利	定延利之編	2,900
995		認知言語学と談話機能言語学の有機的接点	中山俊秀・大谷直輝編	4,500
1005		実験認知言語学の深化	篠原和子・宇野良子編	5,400
1002	シリーズ 話し合い学をつくる 3	これからの話し合いを考えよう	村田和代編	3,200
1006		ナラティブ研究の可能性	秦かおり・村田和代編	3,600
792	シリーズ 文化と言語使用 2	場とことばの諸相	井出祥子・藤井洋子監修 井出祥子・藤井洋子編	3,600
1028		統計で転ばぬ先の杖	島田めぐみ・野口裕之著	1,400
1090		場面とコミュニケーションでわかる日本語文法ハンドブック	中西久実子編 中西久実子・坂口昌子・中俣尚己・大谷つかさ・寺田友子著	3,600
1088		アジアに広がる日本語教育ピア・ラーニング	協働実践研究会 池田玲子編	3,000
1041		「書くこと」の授業をつくる	名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科+千葉軒士著	2,400
1035		「問う力」を育てる理論と実践	小山義徳・道田泰司編	2,800
1088		アジアに広がる日本語教育ピア・ラーニング	協働実践研究会 池田玲子編	3,000
1041		「書くこと」の授業をつくる	名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科+千葉軒士著	2,400
1073		韓国語を教えるための韓国語の発音システム	金鍾徳著 中村麻結訳	6,800

コード	シリーズ名	書名	編著訳者名	本体価格
1075		明治・大正期国語科の成立と修身科との関わり	山本康治著	6,200
1084		明治期の幼稚園教育と童話	北川美子著	7,200
1082		あらためて、ライティングの高大接続	春日美穂・近藤裕子・坂尻彰宏・島田康行・根来麻子・堀一成・由井恭子・渡辺哲司著	2,200
1044		ベーシック語彙意味論	岸本秀樹・于一楽著	1,700
1085		ビジネス文書の基礎技術	石黒圭・熊野健志編	1,400
1027		中高生のための本の読み方	大橋崇行著	1,800
1032		ゼロからはじめる哲学対話	河野哲也編 得居千照・永井玲衣編集協力	2,200
1048	未発選書 28	マンガ学からの言語研究	出原健一著	3,500
1094	未発選書 29	トランス・モダン・リテラチャー	疋田雅昭著	5,800
1022	言語学と言語教育 40	日本語教育の新しい地図	青木直子・バーデルスキー・マシュー編	5,000
1058	言語学と言語教育 42	外国語としての日本語の実証的習得研究	玉岡賀津雄編	5,000
1067	言語学と言語教育 43	日本語学習者による多義語コロケーションの習得	大神智春著	6,800
1008	ひつじ研究叢書（言語編）第162巻	日本語文法史の視界	高山善行著	6,400
1019	ひつじ研究叢書（言語編）第172巻	連濁の規則性をもとめて	平野尊識著	4,800
1054	ひつじ研究叢書（言語編）第175巻	テキスト語彙論	高崎みどり著	4,800
1057	ひつじ研究叢書（言語編）第177巻	日本語複文構文の機能論的研究	田中寛著	8,800
1061	ひつじ研究叢書（言語編）第178巻	日本語における短縮外来語の形成とその仕組み	文昶允著	5,000
1062	ひつじ研究叢書（言語編）第179巻	壁塗り代換をはじめとする格体制の交替現象の研究	川野靖子著	5,800
1063	ひつじ研究叢書（言語編）第180巻	環大阪湾地域におけるアクセント変化の研究	山岡華菜子著	6,800
1064	ひつじ研究叢書（言語編）第181巻	述語と名詞句の相互関係から見た日本語連体修飾構造	三好伸芳著	7,000
1083	ひつじ研究叢書（言語編）第184巻	現代日本語の「ハズダ」の研究	朴天弘著	6,700

## ご注文承ります！ 学会員の方に限り、全品2割引（公費15パーセント引き）！

■上記以外の書籍もご注文承ります。

■注文締め切り：2021年5月31日（月）まで。

■ご注文のしかた：以下のセールページをご覧ください。

<https://www.hituzi.co.jp/books/hituzijl2021spring.html>

■送料：660円

・2万円以上お買い上げの場合は、送料無料。1万円以上お買い上げの場合は送料330円。

・既刊と同時に、未刊の書籍をご注文（ご予約）の場合は、書籍が全て刊行された後にまとめてお送りします。

# 日本語の乱れか変化か

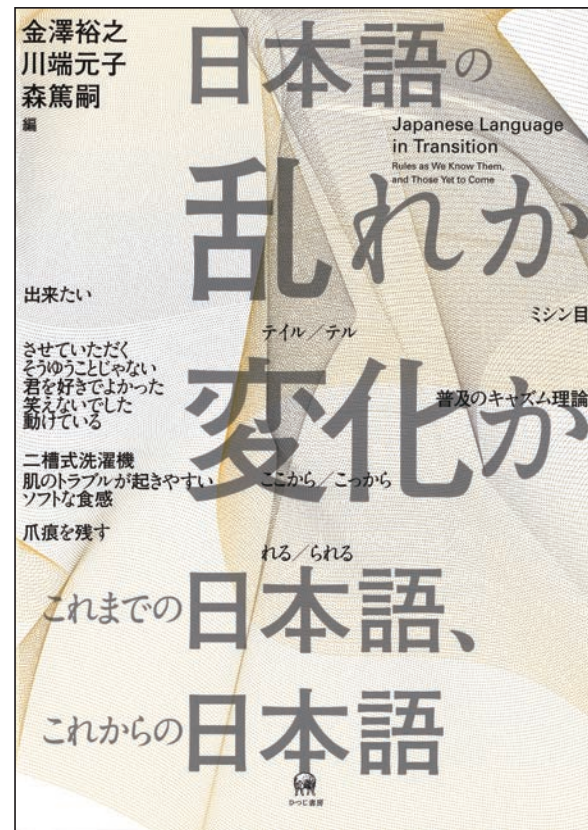
## これまでの日本語、これからの日本語

金澤裕之・川端元子・森篤嗣編

定価 3,800 円+税 A5 判並製カバー装 272 頁

ルールからの逸脱というとは一般にはネガティブに捉えられることが多い。しかし歴史や文化の実際の流れから見ると、それこそが新しい時代やトレンドを生み出す原動力となっていることも多い。日本語における過去や現在進行中の変化を多様な面から取り上げ、ことばの「乱れ」「正しさ」「変化」といったものを、動的な視点から見つめ直す試みの1冊。

執筆者:岡田祥平、尾崎喜光、金澤裕之、川端元子、金愛蘭、野田春美、橋本行洋、松田謙次郎、蓑川恵理子、森篤嗣、山田敏弘、横山詔一



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1037-6.htm>

# 日本語のテンス・アスペクト研究を 問い直す 第2巻 「した」「している」の世界

庵功雄・田川拓海編

定価 4,200 円＋税 A5 判並製カバー装 332 頁

シリーズ『日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す』の第2巻。本巻では、「した」「している」に関する研究を集めた。「した」の形態論、副詞句のタイプとテンス形式、ムード表現としての「している」、史的研究から見た「している」および「した」、など、テンス・アスペクト・ムードに関わる「した」「している」の特徴を多面的に捉える。

執筆者：有田節子、庵功雄、岩本遠億、奥川育子、高田祥司、定延利之、田川拓海、高山善行、福嶋健伸、松田真希子、和田尚明

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-782-9.htm>



# [研究プロジェクト] 時間と言語

## 文法研究の新たな可能性を求めて

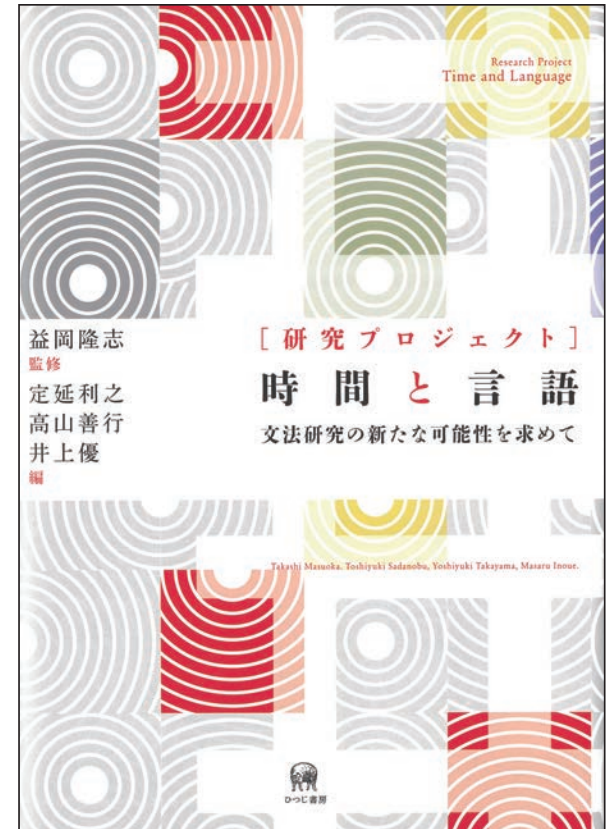
益岡隆志監修 定延利之・高山善行・井上優編

定価 6,200 円＋税 A5 判上製カバー装 352 頁

日本語文法研究の新たな展開を目指す共同研究プロジェクトの成果報告論集。日本語文法研究において最も実績のある研究課題の1つであるアスペクト・テンスについて、現代日本語共通語・文法史・対照研究の3つの観点から多角的にアプローチするとともに、アスペクト・テンス体系と談話・テキストにおける運用のインタラクションを探究する。

執筆者：益岡隆志、定延利之、高山善行、井上優、羅米良、羅希、小林ミナ、藤井俊博、西田隆政、石出靖雄、渡邊淳也、和田尚明、金善美

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-992-2.htm>



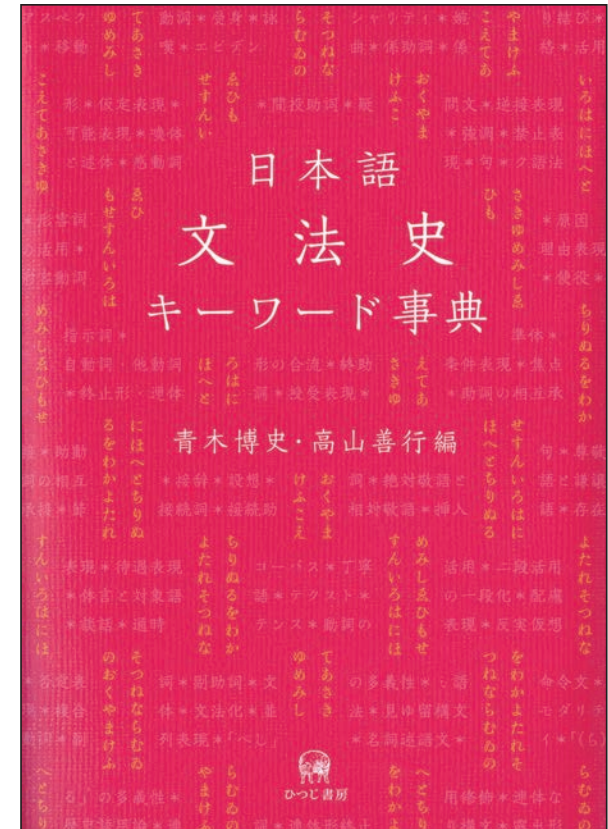


# 日本語文法史 キーワード事典

青木博史・高山善行編

定価 2,000 円＋税 四六判並製カバー装 164 頁

文法史研究は、多様な研究成果が公表され、日本語学の中で最も活気のある分野の一つである。しかし、その一方で細分化・専門化により研究の全体像が見えにくくなってきている面もある。本書は、日本語文法史に関わる 77 のキーワードをとりあげ、文法史研究者による解説をおこなう。解説はコンパクトにまとめることで気軽に要点を知ることができ、研究者のみならず文法について学びたい一般読者にも最適な一冊。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-966-3.htm>

# 日本語文法史研究 5

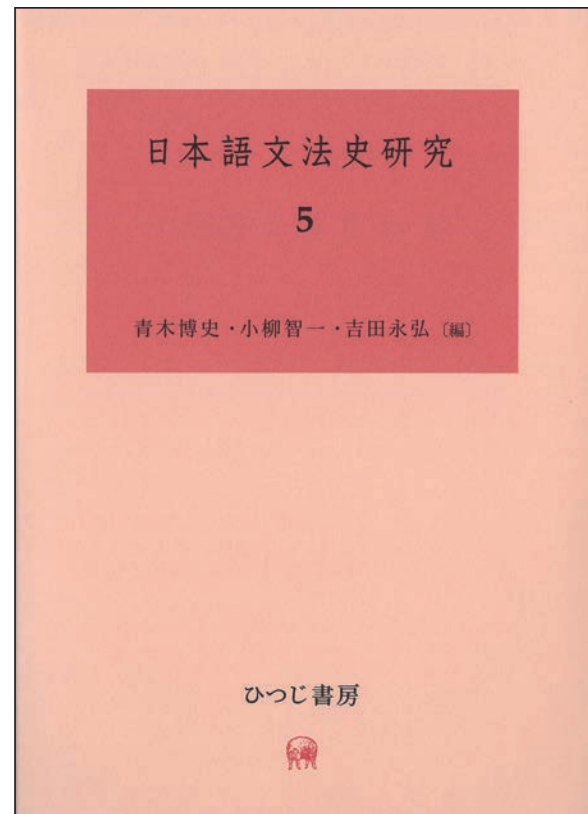
青木博史・小柳智一・吉田永弘編

定価 4,000 円＋税 A5 判並製カバー装 312 頁

本書は、日本語文法史研究の発展を目指して編まれた論文集の第5号である。隔年刊行であるため、取り組みを始めてから10年になる。考察の対象とするテーマや時代、方法論の如何に関わらず、文法史を記述するとはどういうことか、という課題に自覚的であり続けている。研究論文10本の他、テーマ解説、文法史の名著、研究文献目録を収めている。

執筆者：青木博史、勝又隆、小柳智一、近藤要司、高山善行、竹内史郎、辻本桜介、仁科明、山口響史、吉井健、吉田永弘、渡辺由貴

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1046-8.htm>



# 「させていただく」の 語用論

人はなぜ使いたくなるのか

椎名美智著

定価 3,600 円＋税 A5 判上製カバー装 304 頁

「させていただく現象」の謎を解く。「させていただく」を言われて怒れる人がいる一方で、「させていただく」の氾濫はとどまるところを知らない。なぜ人は使いたくなり、何が違和感を生むのか？ この問いに答えるべく、意識調査で許容と違和の境界を探り、コーパス調査で発話行為的観点から他の授受表現との勢力関係変化を探った。それらをゴフマン的枠組みから再解釈することで、授受表現に生じているシフトに対する洞察を得た。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1056-7.htm>





# 「中納言」を活用した コーパス日本語研究入門

中俣尚己著

定価 1,800 円+税 A5 判並製 208 頁

コーパス検索アプリケーション「中納言」の初の解説書。3部構成。第1部「検索してみよう」では「中納言」での検索の仕方や様々な機能について解説する。第2部「分析してみよう」では結果をダウンロードした後、表計算ソフトやテキストエディタを活用し、どのように結果を集計、数値を比較すれば良いかを解説する。第3部「研究してみよう」ではどのようにコーパス研究を行うべきか、また、レポート・論文にまとめる上での注意点を事例をもとに解説する。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1059-8.htm>

# 全国調査による 言語行動の方言学

小林隆編

定価 5,000 円+税 A5 判並製カバー装 356 頁

荷物運びを手伝ってもらいたいとしたら、どのような頼み方をするだろうか。おつりが間違っていることを注意するときはどうだろう。本書は、そうした言語行動の地域差を全国 1000 地点規模の調査によって明らかにする。目的別に分類されたさまざまな言語行動のデータを分析することで、この分野の方言学の基盤づくりをしようというのが本書のねらいである。

執筆者:井上文子、尾崎喜光、櫛引祐希子、熊谷智子、小林隆、佐藤亜実、椎名渉子、篠崎晃一、竹田晃子、津田智史、中西太郎、松田美香

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1071-0.htm>



# 発話の権利

定延利之編

定価 3,000 円+税 A5 判並製カバー装 244 頁

車が動かないのは、運転手がペダルを踏み間違えているからである。それを見つければ車内の誰でも「あ、ブレーキ踏んでる！」と言える。だが、「あ、ブレーキ踏んでた！」は基本的に運転手しか言えない。この運転手の「特権性」はどこから、どのように生じるのか？ 語用論、会話分析、人類学、動物行動学の第一線の研究者たちの「答」がここにある。

執筆者：木村大治、串田秀也、定延利之、園田浩司、高梨克也、中村美知夫、細馬宏通、村田和代

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-983-0.htm>



# 認知言語学と談話機能言語学の 有機的接点

## 用法基盤モデルに基づく新展開

中山俊秀・大谷直輝編

定価 4,500 円＋税 A5 判上製カバー装 408 頁

本書は、言語を実際の言語経験に基づいて形成される動的な知識体系として捉える用法基盤モデルを接点として認知言語学と談話機能言語学の有機的融合を図り、言語知識、言語獲得、言語運用に関する研究の新展開の可能性を示す。第1部と第2部で用法基盤モデルで想定される言語観を概観し、第3部では学際的な視点から行われた9つの研究を実例としてあげる。

執筆者：岩崎勝一、大谷直輝、大野剛、木本幸憲、佐治伸郎、サドラー美澄、柴崎礼士郎、鈴木亮子、第十早織、巽智子、田村敏広、長屋尚典、中山俊秀、堀内ふみ野、松本善子、吉川正人

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-995-3.htm>



# 実験認知言語学の深化

篠原和子・宇野良子編

定価 5,400 円＋税 A5 判上製カバー装 280 頁

2008 年、国際認知言語学会で「量的転回」が宣言された。以来 10 年以上を経て、日本では実験的手法への興味が広がりつつあるが、欧米と比べるとまだ発展の余地がある。本書ではこれらの概観、解説、事例研究に加え、Gibbs、Slobin など実験認知言語学発展の歴史に必読な論文の翻訳を掲載し、実験認知言語学のこれまでとこれからを考える。

執筆者：秋田喜美、Raymond W. Gibbs, Jr. (松中義大訳)、楠見孝、Bonnie McLean、松本曜、鍋島弘治朗、大谷直輝、佐治伸郎、Dan Slobin (櫻井千佳子訳)、菅村玄二、平知宏、宇野良子、吉川正人

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1005-5.htm>





# シリーズ 話し合い学をつくる 3 これからの 話し合いを考えよう

村田和代編

定価 3,200 円＋税 A5 判並製 272 頁

「シリーズ 話し合い学をつくる」待望の第三巻。話し合いは合意形成のツールとして考えられがちだが、目的はそれだけなのだろうか。多領域からの研究・実践報告や議論を通して、あらためて話し合いの機能や可能性を考える。そして、人口減少や超高齢化社会を迎えるこれからの日本社会にとって、話し合いがどのように貢献ができるのかについても問い直す。

執筆者：佐藤徹、田中富雄、岡本能里子、服部圭子、中川雅道、杉岡秀紀、宗田勝也、佐野亘、森本郁代、香取一昭、野村恭彦、中村香苗、村田和代

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1002-4.htm>



# ナラティブ研究の可能性

## 語りが写し出す社会

秦かおり・村田和代編

定価 3,600 円＋税 A5 判並製カバー装 240 頁

本書は、多様なアプローチからの研究方法を用いてナラティブ（語り）を考察する実証研究論文 9 本とイントロダクションから構成される。様々な場所で、様々な人を相手に語られたナラティブを紐解くことで、そこに反映されている現代の価値観や社会規範を批判的に読み解き、それに基づく問題の所在とその解決を導くことをめざしている。執筆者：相田慎、石原凌河、植田栄子、大場美和子、佐藤彰、秦かおり、村田和代、山口征孝、吉田悦子、饒平名尚子



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1006-2.htm>

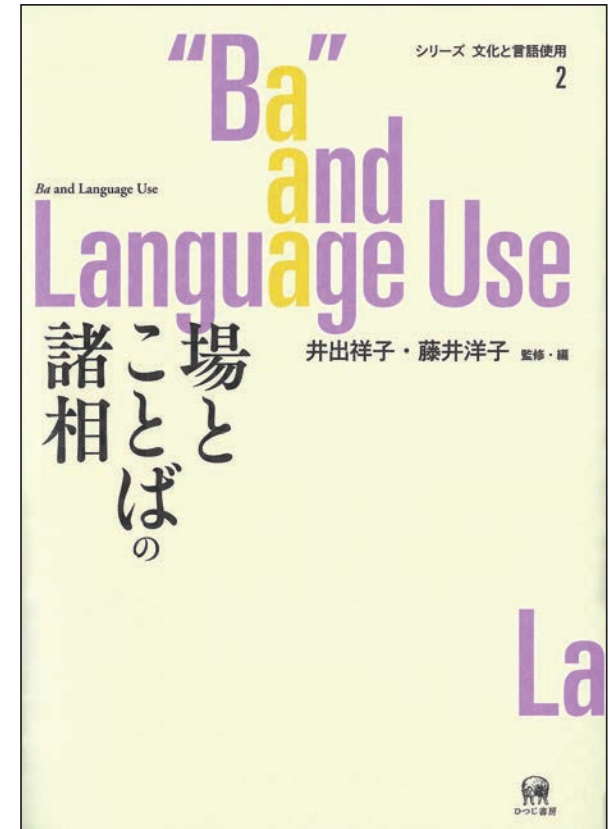
# シリーズ 文化と言語使用 2 場とことばの諸相

井出祥子・藤井洋子監修 井出祥子・藤井洋子編

定価 3,600 円＋税 A5 判並製カバー装

『コミュニケーションのダイナミズム』に続く、「シリーズ 文化と言語使用」の第2巻。既存の語用論理論に新しい語用論の世界を切り拓く一冊。これまでの語用論理論から漏れてしまった非西欧社会の言語実践現象に息吹を与え、日本語のみならず、ハワイの文化・コミュニケーションの理解などに資する世界的視野からの新しい理論の提案書。

執筆者：井出祥子、山口征孝、藤井洋子、井出里咲子、多々良直弘、難波彩子、堀江薫・古田朋子、片岡邦好、スコット・サフト



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-792-8.htm>

# 統計で転ばぬ先の杖

島田めぐみ・野口裕之著

定価 1,400 円+税 A5 判並製カバー装 128 頁

学術論文においても、統計手法の基本的な誤りを含むものが少なからずある。そこで本書では、統計手法を用いる時に気をつけるべきこと、今まで統計の書籍で取り上げられてこなかった「やってはいけない」ことを、特に日本語教育分野を例にまとめた。グラフ・表からサンプル数の考え方まで、すぐに役立つポイントや注意点を広く取り上げている。ウェブマガジンでの人気連載に、例や項目の大幅な加筆をして書籍化。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1028-4.htm>

# 場面とコミュニケーションで わかる日本語文法ハンドブック

中西久実子編 中西久実子・坂口昌子・中俣尚己・

大谷つかさ・寺田友子著

定価 3,600 円+税 A5 判並製カバー装 484 頁

日本語教師として知っておくべき知識・技術を網羅した概説書。総ルビなので外国人日本語学習者の読解教材としても使える。文法知識，文法用語，主要な教科書との対応，母語話者の使用実態，誤用例，授業の指導案など専門知識がA1～B1程度の場面とコミュニケーションに結びつけて示されている。この本を持っていれば代表的日本語教科書の文法ガイドにもなる。国内外の日本語教師の必携書。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1090-1.htm>



# アジアに広がる日本語教育 ピア・ラーニング

協働実践研究のための持続的発展的拠点の構築

協働実践研究会 池田玲子編

定価 3,000 円＋税 A5 判並製 248 頁

「ピア・ラーニング（協働学習）」は今や世界的潮流となった。アジア各地では従来の教育の変革が大きな課題となっている。そこで、日本語教育協働実践研究者たちが、アジア地域でピア・ラーニングを理解し実践するための実践研究拠点の構築に取り組んだ。日本語教育のみならず教育関係者に必読の書。

執筆者：池田玲子、舘岡洋子、近藤彩、金孝卿、トンプソン美恵子、朱桂栄、羅曉勤、金志宣、木村かおり、スニーラット・ニンジャローン、ナイダン・バヤルマ、アリアンティ・ヴィシアティ、荒井智子、張瑜珊、菅田陽平、駒澤千鶴、房賢嬉、小浦方理恵

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1088-8.htm>



# 「書くこと」の授業をつくる 中・高・大で教える

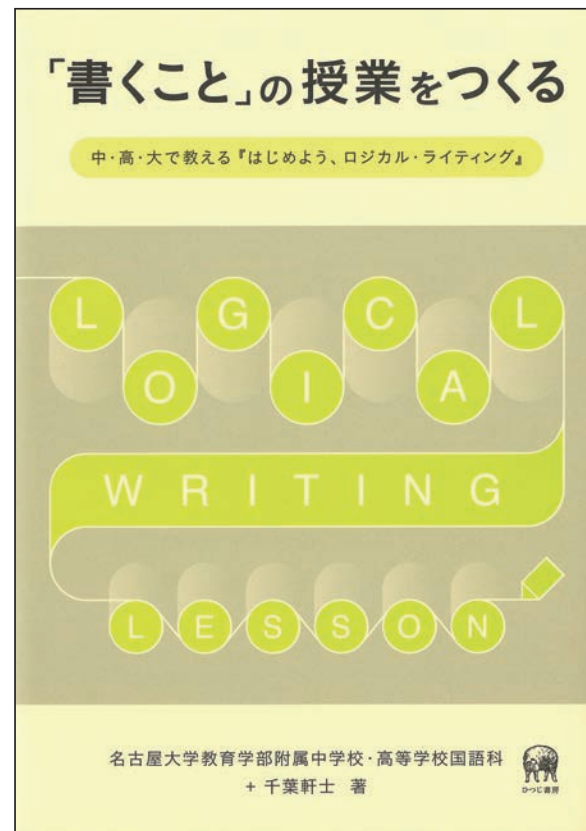
『はじめよう、ロジカル・ライティング』

名古屋大学教育学部附属中学校・

高等学校国語科＋千葉軒土著

定価 2,400 円＋税 A5 判並製カバー装 208 頁

論理的な文章を書くための日本語表現の教科書『はじめよう、ロジカル・ライティング』。この教科書ができるまでの経緯と、「意見文」の書き方を軸に論理的表現の基本を学ぶ本書の趣旨を解説し、授業の実践例を紹介する。中学・高校の国語や総合的な学習の時間、大学の日本語表現法の授業で本書を使った例を取り上げ、その成果と課題を具体的に解説。効果的な授業のための教科書の使い方の手引き。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1041-3.htm>

# 「問う力」を育てる 理論と実践

問い・質問・発問の活用の仕方を探る

小山義徳・道田泰司編

定価 2,800 円＋税 A5 判並製カバー装 360 頁

学習指導要領の改訂により、「自ら問いを立て、自律的に考えることのできる人材の育成」が求められている。本書は、学習者の「問い」や、教師の「発問」を基に展開する実践の紹介と背景理論の解説を行い、教育現場で教える教員の方はもちろん、学習者の「問い」や「質問」の研究に携わる大学院生や研究者も深く学べる内容となっている。

執筆者：生田淳一、植阪友理、小山義徳、鎗木良夫、亀岡淳一、小山悟、齊藤萌木、篠ヶ谷圭太、白水始、たなかよしこ、中山晃、野崎浩成、深谷達史、道田泰司、八木橋朋子

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1035-2.htm>

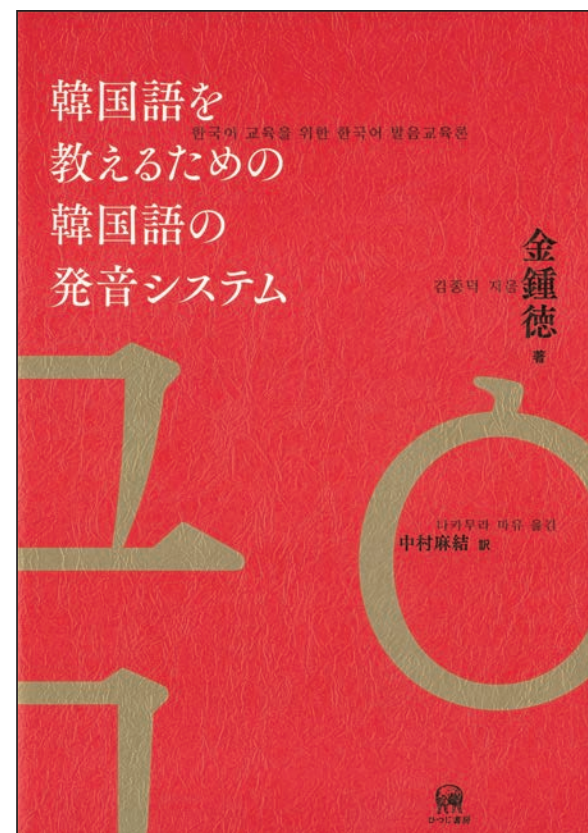


# 韓国語を教えるための 韓国語の発音システム

金鍾徳著 中村麻結訳

定価 6,800 円＋税 A5 判並製カバー装 216 頁

本書は、第二言語としての韓国語教育のための発音規則を網羅してその階層を詳らかにした上で、韓国国立国語院標準語規定標準発音法及び標準国語大辞典を精査検証し、最適な用例及び例外を提示しつつ、教条的な規範主義ではなく、現実発音を追求する良著である。韓国語を教育する教授者・その教授法を学ぼうとする学生・大学院生・講師志望者必携の書であり、韓国語学習者にとっては発音規則を学ぶための最良の参考書となるだろう。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1073-4.htm>



# 明治・大正期国語科の成立と 修身科との関わり

## 文学教材は何を伝えたのか

山本康治著

定価 6,200 円＋税 A5 判上製カバー装 312 頁

明治・大正の教育は、忠君愛国とそれに基づく家族国家観の形成に向けて、修身科を頂点とした教育体系により展開していた。その中で文学教材は、修身科にあっては、「教訓・訓戒」のための題材として、国語教育実践の場においては、それらに抗う、児童主体の「想像」を重視した題材として扱われていった。本書では、当時の国語教育の実相を捉えるとともに、脱文学の方向性を示している現在の国語教育のあり方についても考察する。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1075-8.htm>



# 明治期の幼稚園教育と童話

## 小学校教育・児童文学との関わりから

北川公美子著

定価 7,200 円＋税 A5 判上製カバー装 356 頁

日本の幼稚園教育の歴史の中で、童話との関係は深く、その初期から「談話・説話」の保育項目の中で取り上げられ、現在でも教材として重要な役割を担っている。本書では、そのような童話が、幼稚園教育の黎明期である明治期において、どのように保育の中へ導入され、受容されてきたかを、小学校教育や児童文学、及び社会状況との関わりを踏まえ、実証的に検証することにより、保育内容としての童話の成立過程の一端を明らかにした。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1084-0.htm>

# あらためて、 ライティングの高大接続

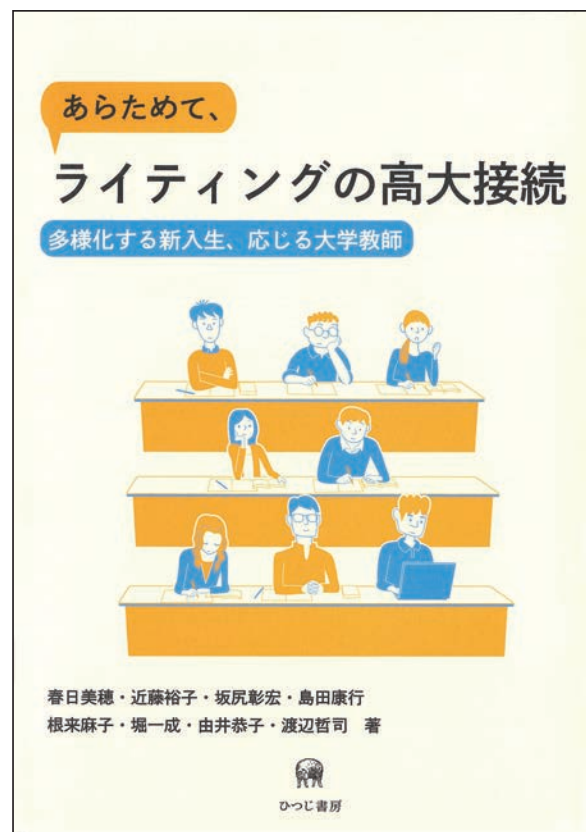
多様化する新入生、応じる大学教師

春日美穂・近藤裕子・坂尻彰宏・島田康行・根来麻子・  
堀一成・由井恭子・渡辺哲司著

定価 2,200 円＋税 A5 判並製カバー装 184 頁

もとより高校と大学の間で構造的に切れてしまっているライティング教育をどうつなぐか——を考える『ライティングの高大接続』の続編。今回はもっぱら大学教師の実践的研究にフォーカスし、理念と実践のベスト・バランスを目指す。「書くこと」の経験も能力もますます多様な新入生たちを迎えてなすべきは、結局「学習者のことを知って、教える」ことである。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1082-6.htm>

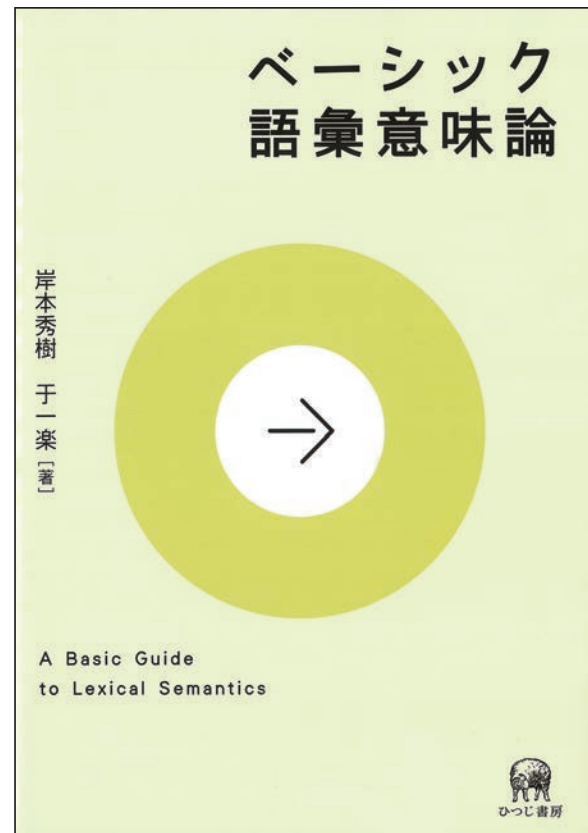


# ベーシック語彙意味論

岸本秀樹・于一楽著

定価 1,700 円+税 A5 判並製カバー装 144 頁

語彙には歴然とした体系性がある。本書は、語彙のこのような体系的な側面を特に意味的な観点から解説する。語彙の体系は、語の形態・音韻・意味に及び、日常的な表現を中心に具体例を交えながら、これらの体系に関して基本的な事実とそれを説明する規則や原理を紹介する。本書を読み終えると、語彙の意味がどのように研究されてきたかについておよその方向性をつかむことができ、日常的な語彙の中に潜む日頃気がつかない法則性に迫ることができる。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1044-4.htm>

# ビジネス文書の基礎技術

## 実例でわかる「伝わる文章」のしくみ

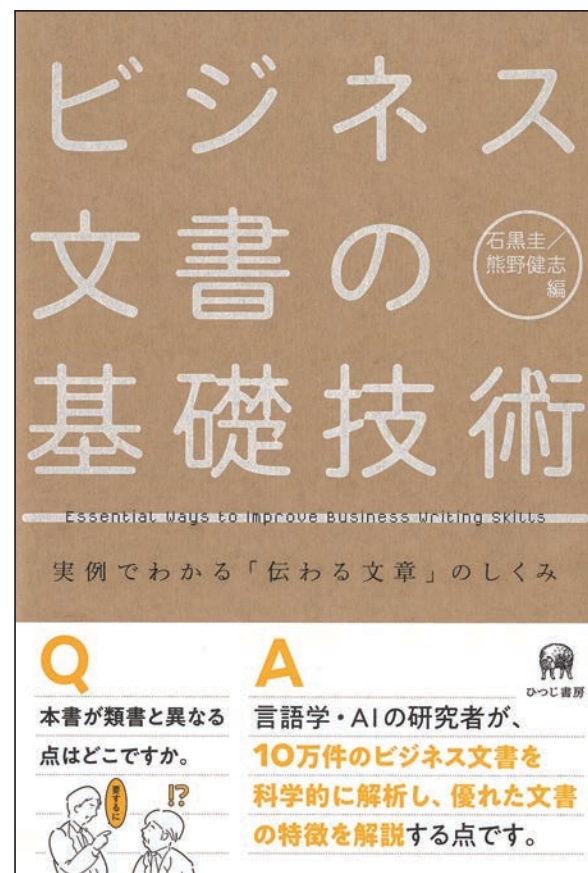
石黒圭・熊野健志編

定価 1,400 円＋税 四六判並製カバー装 208 頁

ビジネス文書の書き方を見よう見まねで学ぶ時代は、もはや過去のものとなった。本書は、ビジネス文書のコーパスから豊富な具体例を抽出、それを言語学的な観点から丁寧に分析し、優れた文書の特質を明らかにした新しいタイプの実用書である。就活中の学生や企業に勤めたばかりの新入社員、企業の日本語研修担当者やビジネス日本語教師、いずれにもオススメ。

執筆者：青木優子、浅井達哉、井伊菜穂子、石黒圭、井上雄太、岩崎拓也、熊野健志、佐野彩子、鈴木英子、田中啓行、布施悠子、アンドレイ・ベケシュ、蒙韞、柳瀬隆史、横野光

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1085-7.htm>





# 中高生のための 本の読み方

読書案内・ブックトーク・PISA 型読解

大橋崇行著

定価 1,800 円＋税 四六判並製カバー装 226 頁

中学生、高校生に向けて、本の読みどころや、読むときに有効となる視点などをブックトークの形式で紹介し、読書案内としても使うことができる。また、後半部では、さまざまな読書会の進め方や、国語の新学習指導要領とも深く関わる OECD の PISA 型読解力を身につけていく上で、読書をどのように活用していけば良いのかについて解説している。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1027-7.htm>



# ゼロからはじめる哲学対話

## 哲学プラクティス・ハンドブック

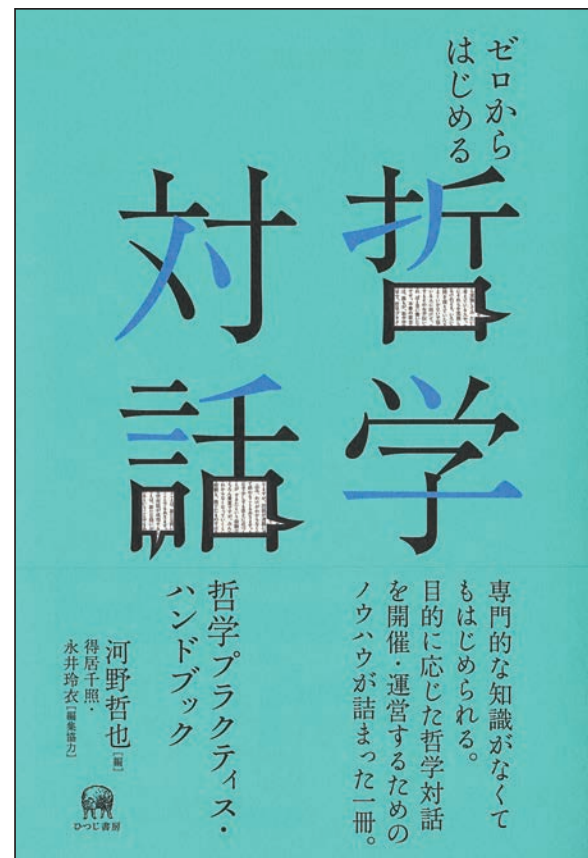
河野哲也編 得居千照・永井玲衣編集協力

定価 2,200 円+税 四六判並製カバー装 376 頁

哲学カフェ、子どもの哲学、企業内哲学対話をやってみたい人のための必携ハンドブック。経験豊かな実践者が執筆を担当。人の集め方、場所の決め方、問いの出し方、対話の進め方、使える道具、困った時の対応の仕方など具体的な解決案が満載。対話に必要な哲学史と哲学説の知識も一通り学べる。誰でもが使える対話と思考のためのガイドブック。

執筆者：河野哲也、得居千照、永井玲衣、小川泰治、小川仁志、梶谷真司、神戸和佳子、古賀裕也、齋藤元紀、清水将吾、寺田俊郎、中川雅道、西山溪、松川えり、村瀬智之

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1032-1.htm>



未発選書 27

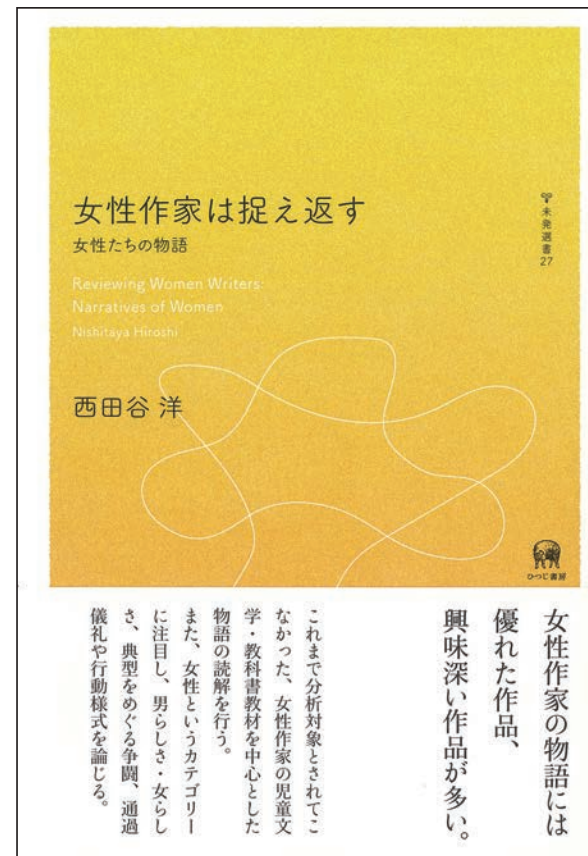
# 女性作家は捉え返す 女性たちの物語

西田谷洋著

定価 3,600 円+税 四六判上製カバー装 416 頁

児童文学の女性作家たちはどのような物語を紡ぎ出したのだろうか。児童文学は一見子供向けとされるが、実際には別世界への飛翔だけでなく、時にメランコリックで無気力な人物を描き、死や記憶にまつわる物語が編まれていた。本書は、教科書教材に採用されることも多い安房直子・あまんきみこ・小川洋子の作品と共に、吉本ばなな・山内マリコの小説、岡田麿里脚本のアニメ、香魚子の少女漫画を取り上げ、女性児童文学の様相を探る。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1047-5.htm>



未発選書 28

# マンガ学からの言語研究

## 「視点」をめぐって

出原健一著

定価 3,500 円＋税 四六判上製カバー装 260 頁

認知言語学とマンガ学。一見、関連性がないように見えるが、実はどちらも「視点」がキーワードとなっている。認知言語学では主観的な視点と客観的な視点が主に議論されるが、マンガにはさらに多様な「視点」が存在する。本書ではマンガ学の視点概念を用いて、日本語のルビと英語の自由間接話法を中心に分析し、言語研究全般に援用できるよう新たな視点理論の提案を試みる。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1048-2.htm>



未発選書 29

# トランス・モダン・ リテラチャー

「移動」と「自己」をめぐる  
芥川賞作家の現代小説分析

疋田雅昭著

定価 5,800 円＋税 四六判上製カバー装 592 頁

「自己」が近代文学が拘り続けたテーマであることは言を俟たないが、現代文学は統一され安定した「自己」そのものへの不信から始まっている。ともに時空を「移動」し続ける存在としての読者とテキストが出会う結節点。そこから変容しながらも繰り返し立ち上がってくる主体こそが現代文学が語る「自己」にほかならない。本書は「自己」と「移動」に着目し芥川賞受賞作家のテキストから平成という時代の諸相を読み込む試みである。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1094-9.htm>



シリーズ言語学と言語教育 40

# 日本語教育の新しい地図

## 専門知識を書き換える

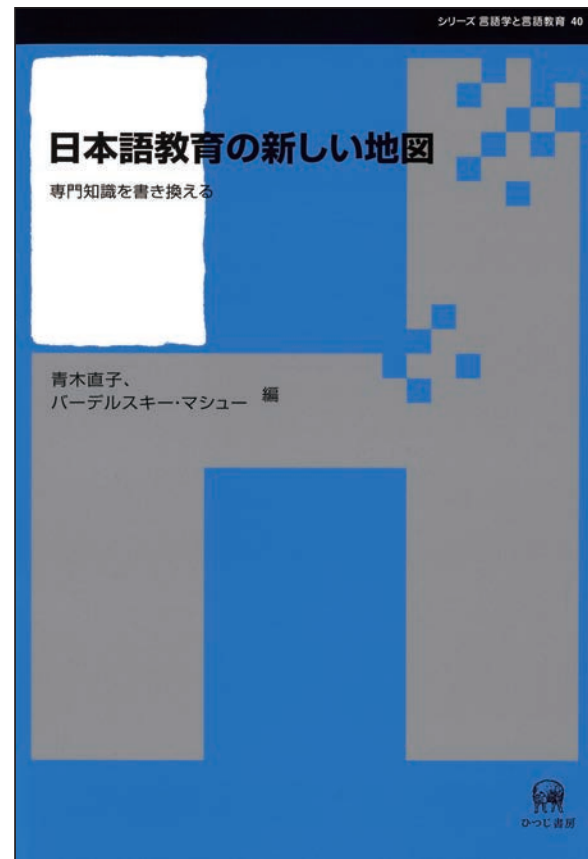
青木直子、バーデルスキー・マシュー編

定価 5,000 円+税 A5 判上製カバー装 340 頁

国境を越えた移動の急増とインターネットとモバイル技術の普及により、日本語学習のあり方が大きく変化した。学習者の役に立つには、日本語教師にはどのような専門知識が必要か。本書では言語と学習についての従来の常識を問い直し、グローバルな視点から新たに教師教育を考え直す一冊。

執筆者：青木直子、バーデルスキー・マシュー、リー・ウェイ（翻訳：チャン・エイミー）、百濟正和、義永美央子、西口光一、マーリー・ギャロルド、宇塚万里子、難波康治 ほか

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1022-2.htm>





シリーズ言語学と言語教育 42

# 外国語としての 日本語の実証的習得研究

玉岡賀津雄編

定価 5,000 円＋税 A5 判上製カバー装 208 頁

これまで日本語や外国語の習得研究は、事例を使った「直感」的な研究が多かった。しかし、特定の表現だけで現象を説明しようとする、視点が偏りがちになる。そこで本書では、「直感」で推論された仮説を、コーパス、テスト、実験などで集めたデータを統計的に解析して「実証」するというアプローチの研究を、詳細な解説を含んで8つ掲載した。

執筆者：王蕾、斉藤信浩、張婧禕、初相娟、早川杏子、母育新、毛文偉、大和祐子

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1058-1.htm>



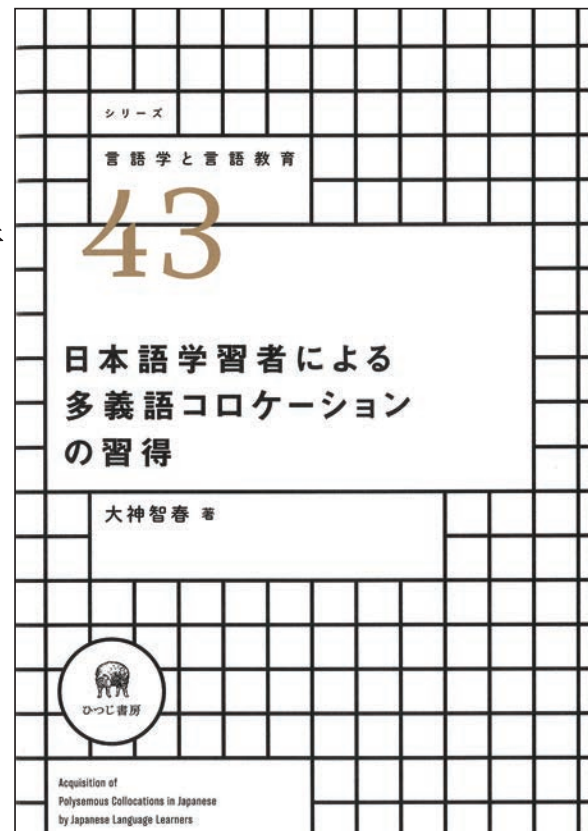
シリーズ言語学と言語教育 43

# 日本語学習者による 多義語コロケーションの習得

大神智春著

定価 6,800 円＋税 A5 判上製カバー装 280 頁

本書は、学習者が多義動詞「とる」を中心語とするコロケーションの習得過程において、どのような中間言語を形成しているか解明することを目的とした。研究に当たっては、学習者の中間言語を典型化、一般化、差異化の観点から複合的に捉えることを試みた。また、研究結果を日本語教育のコロケーション教材開発に活かすことを目指し、教材作成過程における留意点や練習問題の在り方等を提言した。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1067-3.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第162巻

# 日本語文法史の視界

## 継承と発展をめざして

高山善行著

定価 6,400 円＋税 A5 判上製函入り 288 頁

本書は、日本語文法史の開拓的研究をまとめたものである。古代語の助動詞を中心に、現代語との対照の観点から基礎的、実証的研究を行なっている。「名詞句」「モダリティ」「疑問文」「配慮表現」を取り上げ、それぞれの研究において新しい視点、分析方法を提示する。また、「とりたてとモダリティ」「テンス・アスペクトとテキスト構造」など、研究テーマの接続も試みる。この分野の研究領域を見通し、領域拡張の基点となる書。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1008-6.htm>

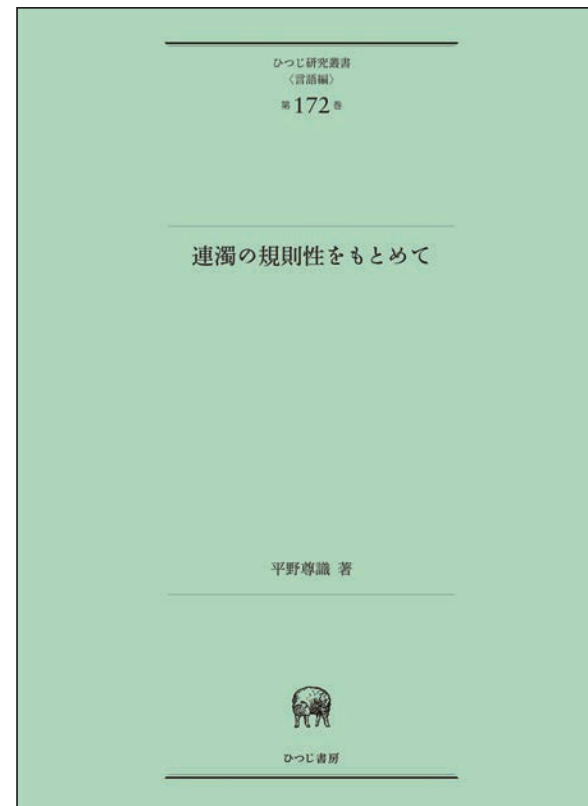
ひっじ研究叢書（言語編） 第172巻

# 連濁の規則性をもとめて

平野尊識著

定価 4,800 円＋税 A5 判上製函入り 216 頁

複合語における連濁形・非連濁形の生起を規則によって説明する試みである。その前提として、右枝条件など連濁を阻止する制約を再吟味するとともに、世界の言語の複合語の構成を概観した。複合語化には前項と後項を結び付ける要素の存在が必要なこと、このような要素はかつて日本語にも存在し、それが連濁の発生へと繋がったことを指摘した。また、規則化の問題点が明らかになったことから、連濁研究の今後の方向性を示したと言える。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1019-2.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第175巻

# テキスト語彙論

テキストの中でみる

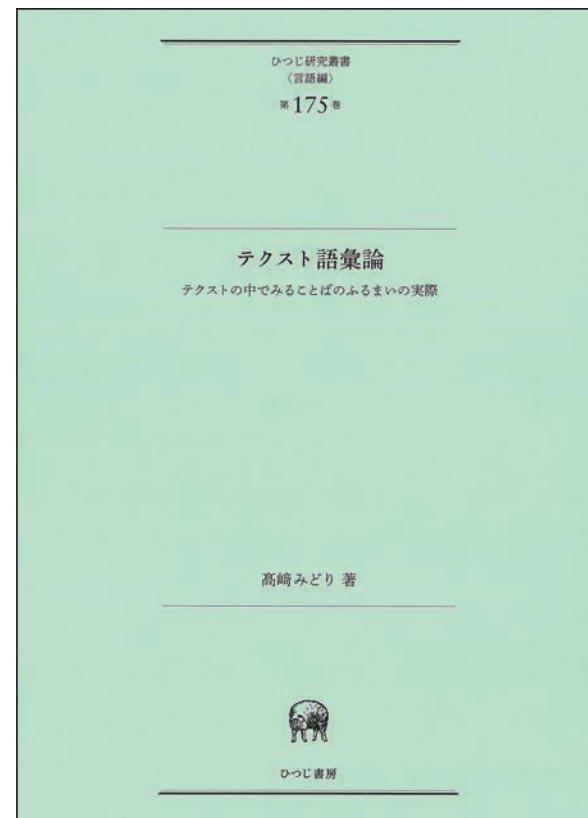
ことばのふるまいの実際

高崎みどり著

定価 5,800 円＋税 A5 判上製函入り 248 頁

本書は、実際のテキストの中での語の働き・ふるまいを観察し、テキストの展開と関係づけて論じるテキスト分析をめざしている。“テキスト構成”や“語彙的結束性”といったテキスト分析の概念を、語の辞書的“意味”の捉え直しや、近代語テキストにおいて重要性を増す“漢語”や“名詞”の役割、コ系やド系指示語の機能の再発見等と関連づけて具体的に論じ、文体論やCDA（批判的ディスコース分析）にも目配りしている。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1054-3.htm>





ひっじ研究叢書（言語編） 第177巻

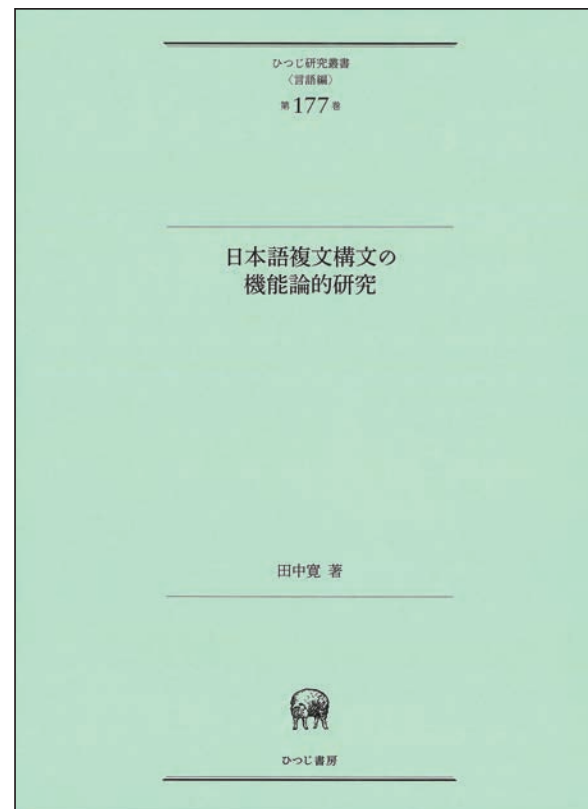
# 日本語複文構文の 機能論的研究

田中寛著

定価 8,800 円＋税 A5 判上製函入り 434 頁

日本語の複文を構文の複合体としてとらえ、その談話環境及び展開の諸相を機能論的角度から論じた。ナラを始めとする条件構文の体系的見直し、動詞の接続辞表現、トアッテとニアッテ、ダケニとダケアッテの意義づけを行うほか、ナカ時間節の事態誘導的機能に深く関与する点、形態的機能的に多岐にわたる比較・並列・対比表現の考察などを加える。『日本語複文表現の研究』、『複合辞からみた日本語文法の研究』に続く複文研究の集大成。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1057-4.htm>



ひっじ研究叢書（言語編） 第178巻

# 日本語における 短縮外来語の形成とその仕組み

文昶允著

定価 5,000 円＋税 A5 判上製函入り 164 頁

本書は、複合外来語を元にする短縮語形成（例えば「デジタル・カメラ」が「デジカメ」となる現象）の仕組みについて扱うものである。先行研究では、専ら理論的な分析がなされている一方で、その説明に実証的な裏付けは与えられていない。本書では、データベースの分析及び実験により、短縮語形成を制御する要因を明らかにする。具体的には、音韻的要因（音節構造や同音連続）に加え、言語使用者の選好傾向が影響していることを主張する。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1061-1.htm>

ひつじ研究叢書（言語編） 第179巻

# 壁塗り代換をはじめとする 格体制の交替現象の研究

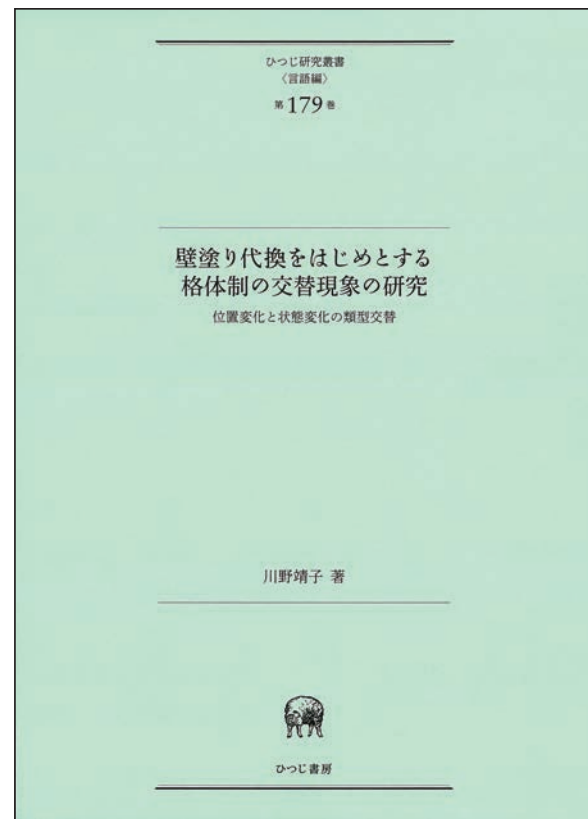
## 位置変化と状態変化の類型交替

川野靖子著

定価 5,800 円＋税 A5 判上製函入り 296 頁

「壁にペンキを塗る／壁をペンキで塗る」のような格体制の交替現象は、壁塗り代換と呼ばれ広く知られているが、この現象はどのような仕組みで起こるのか。本書では、壁塗り代換とその関連現象を体系的に記述し、「意味類型の階層モデル」を用いて成立原理の統一的な説明を試みる。英語の locative alternation 研究との比較、ヴォイスや多義語との原理的な相違にも議論が及ぶ。一冊まるごと現代日本語の壁塗り代換を論じた、初の研究書。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1062-8.htm>



ひつじ研究叢書（言語編） 第180巻

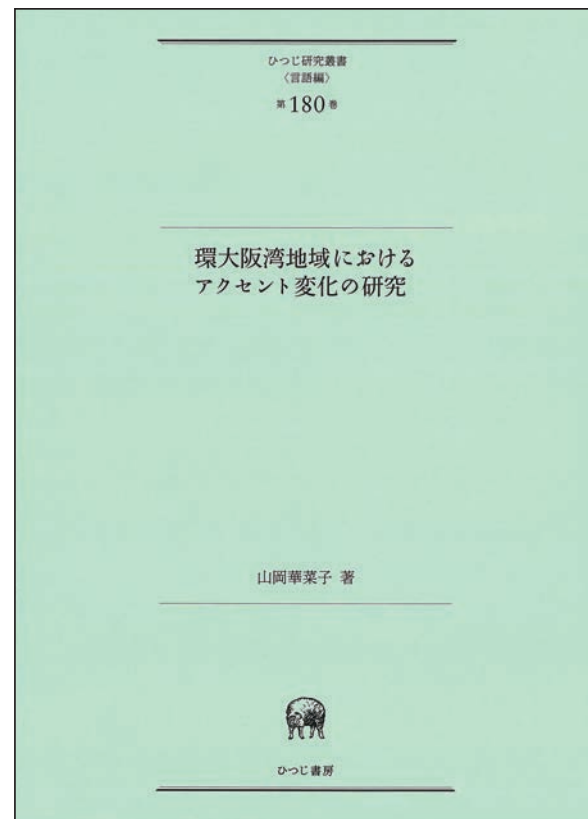
# 環大阪湾地域における アクセント変化の研究

山岡華菜子著

定価 6,800 円＋税 A5 判上製函入り 258 頁

京阪式アクセントはアクセント研究の中心をなしてきた分野であるが、その中心の京都から諸地域に範囲を広げると、あまり注目されてこなかった地域や興味深いアクセント変化が観察される。本書では、淡路、明石、鳴門、岸和田、和歌山県橋本、高知などの環大阪湾地域のアクセントやアクセント変化の傾向を、筆者の調査の結果を基に、アクセント史もふまえ明らかにする。また、その特徴を京阪式アクセントの史的変遷の上に位置づける。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1063-5.htm>



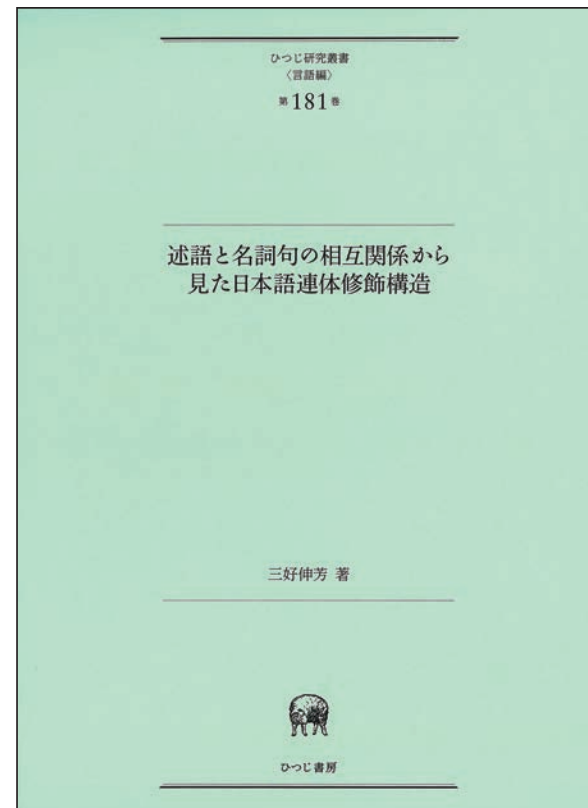
ひつじ研究叢書（言語編） 第181巻

# 述語と名詞句の相互関係から見た 日本語連体修飾構造

三好伸芳著

定価 7,000 円＋税 A5 判上製函入り 284 頁

従来、連体修飾要素の機能は被修飾名詞句の指示性によって決定されるとされ、「定／不定」といった区別が素朴に連体修飾構造の分析に適用されることが多かった。しかし、実際には、そのような一般化に当てはまらない例が体系的に存在する。本書では、日本語の連体修飾構造に見られるさまざまな文法的振る舞いの包括的分析を通じ、連体修飾要素の機能、述語の内包性、名詞句の指示性といった意味論的な概念について、新たな理論的枠組みの提示を試みる。



詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1064-2.htm>



ひっじ研究叢書（言語編） 第184巻

# 現代日本語の 「ハズダ」の研究

朴天弘著

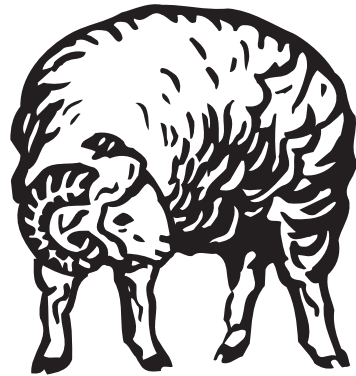
定価 6,700 円＋税 A5 判上製函入り 296 頁

現代日本語の「ハズダ」について、様々な用法を細く分類するだけでは、「ハズダ」の本質が見えにくくなる恐れがある。本書では、「話し手が持っているある情報（知識）に対して、それに反する、またはギャップが感じられる状況が起きる場合」という「ハズダ」の使用条件を提示し、「知識確認」という機能が「ハズダ」の意味機能であることを新たに導入することで「ハズダ」の解釈に統一的な答えを見出した。

詳細ページ <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-8234-1083-3.htm>



セールページへはこちらから！



ひつじ書房



学会員の方に限り、全品 2 割引（公費 15 パーセント引き）！  
（紹介した書籍以外のご注文も承ります）